

I めざす学校の姿

1 学校教育目標

「知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できる子どもの育成」

2 めざす学校像

(1) 互いに認め合い、学び合うことで、子どもも教師も成長していく学校

- ・ 確かな学力と体力の向上をめざし、主体的・対話的な学び方ができる

(2) 地域や保護者に信頼され、ともに創り上げる学校

- ・ 違いが尊重され、社会の一員として積極的に地域と関わることができる
- ・ 地域ぐるみの教育のもと、地域とつながり、安心して楽しく学ぶことができる

3 めざす教師像

(1) 子どもや保護者の思いに寄り添って教育活動を創造する教職員

- ・ 子どもや保護者一人ひとりの思いに丁寧寄り添い、ともに考え、ともに歩む
- ・ 保護者・地域の学校への期待を感じ取り、学校職員として自己研鑽を積む

(2) 互いに支え合い、刺激を受け合い、学び合って、ともに成長する教職員

- ・ 授業や学級、子どもの事実を通して、互いに刺激を受け合い、学び合い、支え合って、ともに成長していく
- ・ 様々な事象に、他の職員と連携して組織的に対応することができる

II 改革の中心となる経営方針

- 1 これからの社会を「生き抜く力」を育む教育活動の実現
- 2 家庭や地域と共にある学校づくりの推進（地域に開かれた学校の実現）
- 3 安全安心な学び場としての学校づくりの推進（学校教育環境の整備）
- 4 誰もが居場所のある学校づくりの充実（不登校対策の強化と特別支援教育の充実）
- 5 組織的な学校運営と風通しのよい前向きな職場づくりの推進

III 経営方針の達成に向けた方策

1 「生き抜く力」（確かな学力「知」、豊かな人間性「徳」、体力「体」）の向上

① 主体的・対話的な学び方を育成する授業への転換

- ・ 「全国学調」「みえスタ」「全国体力調査」の結果から明らかになった本校の課題（子どもたちが主体となった探究的な学習過程の充実）を、地域教材を活用した生活科、社会科の授業、日々の国語科・算数科の授業実践により改善する
- ・ 授業力UP5（①「資質能力」の明確化②めあて③学習活動④まとめ振り返り⑤端末活用）に基づいた授業スタイルを確立する
- ・ 「ICT機器」を効果的に活用した授業や家庭教育・家庭学習についての研修を行う

② 学力における基礎基本の徹底

- ・ きめ細かな指導を継続し発展させる（少人数指導・習熟度別学習の実施）
- ・ 読書好きの子どもを育てる教育活動を推進する（授業における読書指導の工夫、学校図書館の積極的な活用、学級文庫の充実、読み聞かせボランティアの活動推進）
- ・ PTA 家庭教育学級と連携して、家庭の教育力向上・充実を図る
「親子読書」等の取組を保護者と連携して行い、スクリーンタイムを削減し、読解力、想像力、他者を思いやる力、家族の絆等を高める

③ 道徳性・社会性と自己肯定感の育成（いじめ・問題行動の未然防止）

- ・子どもたちの良さを認め、賞賛する言葉がけによる生徒指導を行う
- ・子どもたちが、自己を見つめ様々な道徳的価値について考えを深める授業を実現する
- ・人権教育を充実させ、他者との違いを認め、尊重し、共にあろうとする心情を育てる
- ・挨拶とは何か、どんな価値があるのかを丁寧に指導し、気持ちの伝わる挨拶をしようとする子どもを育てる

④ 教職員の資質向上

- ・主体的・対話的で深い学びを生む授業を具体的にイメージするため、校外研修会への参加を推進する
- ・全職員が授業を公開し、職員同士で学び合う機会を十分に保障する
- ・職員一人ひとりの授業や学級経営における課題に応じた育成活動を充実させ、新しい学力観に則った授業ができる教員が育つ体制を整える

2 家庭や地域と共にある学校づくりの推進（地域に開かれた学校の実現）

① 地域・家庭の学校や教育、子どもたちへの関心の向上

- ・HPやメール配信システム等により、地域・家庭に学校情報を積極的に発信する

② 学校・地域の活性化と安全性の向上

- ・愛宕地域づくり協議会と連携して地域行事を活性化する
- ・避難訓練、登下校の見守り等を地域と協働して行う

3 安全安心な学び場としての学校づくりの推進（学校教育環境の整備）

① 落ち着いた生活態度と健全な心の育成

- ・挨拶・言葉遣い・時間・履物・無言清掃などの凡事徹底を図る
- ・校内環境美化の励行に努める（環境の乱れ→言葉・心の乱れ→行動の乱れ）

② 児童理解に基づいた統一感のある生徒指導

- ・「愛宕小のきまり」の共通理解に基づいた丁寧な指導を行う
- ・教職員間の情報共有と迅速かつ組織的な対応をする
- ・保護者との信頼関係を構築する（こまめな連絡）

③ 学校の危機管理能力の維持・向上

- ・危機管理マニュアルの不断の見直しを行う

4 誰もが居場所のある学校づくりの充実（不登校対策の強化と特別支援教育の充実）

① 特別支援コーディネーターを核とした特別支援教育の推進体制の確立

- ・児童生徒理解支援シートを活用し、教職員間で情報共有を図る
- ・特別支援教育についての研修を行う

② 子どもたち一人ひとりの困り感に寄り添った指導・支援の充実

- ・誰もが「わかる・できる」を実感する特別支援教育の視点をいかした授業をすすめる
- ・刺激の少ない落ち着いた学習環境を整える
- ・SC・SLIS・支援員等を効果的に活用する

5 組織的な学校運営と風通しのよい前向きな職場づくり

① 二部会や各専門委員会の活性化

- ・P（計画）D（実行）C（評価）A（対策・改善）を循環を意識して取組をすすめる
- ・互いを尊重し、高め合う教職員の同僚性の醸成とコンプライアンス遵守に努める

② 総勤務時間の縮減

- ・教育活動や会議の効率化、ICT技術の活用、校務組織の見直しをすすめる
- ・「時間外労働月 45 時間以内（年間 300 時間以内）」、「定時退校日の徹底」、「放課後開催の会議 60 分以内に終了」において、前年度の実績を上回る